３－４　　第４回ワークショップ　－グループワーク２日目－

（１）開催概要

◆開催日時：平成２８年 ８月２７日（土）　午後１時３０分～４時３０分
◆開催場所：立教大学 池袋キャンパス 本館2F １２０２教室
◆参加人数：４７名（豊島区側：３７名、秩父市側１０名）
◆次　　第：　１．開会挨拶・ワークショップの進め方の説明
　　２．各グループで前回の振り返り
　　３．グループワーク テーマ③
　　４．グループごとにテーマ③のまとめの発表
　　５．講評
　　６．閉会挨拶

（２）グループワークの内容

テーマ③：『生涯活躍のまち』として、住みたくなるまちづくりとは

前回、「豊島区と秩父市のお互いのまちの魅力を語ろう」「どうすれば姉妹都市としての交流が深まるか」という、２つのテーマでグループワークを行いました。

グループワーク２日目は、これを踏まえて、どうすれば「生涯活躍のまち」として「住みたくなるまち」をつくることができるか、皆さんで意見や考えを出し合いました。

秩父市全体が「生涯活躍のまち」となるイメージで「住みたくなるまちづくり」を考え、もし秩父市に住むとしたら、住まい、働く場、趣味、生きがい、学び、健康面のフォロー、地域住民との交流などについて、皆さんはどう考えるか議論しました。そして最後に、それはどのようなまちなのか、みんなが秩父に住みたくなる、移住後に友人に年賀状に書きたくなるようなキャッチコピー（『〇〇〇〇なまち秩父！』など）をグループの皆で考え発表を行いました。

A チームまとめ発表

キャッチコピー

Made in 秩父 ～Only one のライフスタイル～

・テーマは「仲間」。知り合い、友達、仲間がいることが住むうえでは重要であると考えた。
→人が集まる場所を作ることが大切である。
・秩父にはお酒、野菜等「秩父ブランド」の商品がたくさんある。
・「住まい」、「仕事」、「サードプレイス」の三つのキーワードで住みたくなる、行ってみたくなるまちづくりを考えた。

〔住まい〕

・「誰もが使える」をコンセプトに、多世代が使えるシェアハウスをつくる。
・知り合いのいる店を紹介するなど、知人関係を軸としたホームステイ制度等をつくる。

〔仕事〕

・一か月～二か月間、働きながら秩父での生活が体験できるシステムをつくる。
→リゾートバイトを中心に若者を呼び込む。
・「秩父ブランド」の商品の製造や栽培を、住み込みでできるようになれば、それが仲間をつくる土台となり、また日常生活も味わうことができる。
→「秩父ブランド」のオリジナル商品で仕掛ける！

〔サードプレイス〕

・野菜づくり等、豊島区でなく秩父だからこそできる趣味を共有できる場の創出。
→秩父の魅力を活かした余暇の過ごし方の基盤を創出する。

B チームまとめ発表

キャッチコピー

つながるまち 秩父！

・「コミュニケーション」、「交通」、「自然」、「若者」、「生活」、「仕組み」、「食と農」この７つをキーワードにまとめ、住みたくなるまち、行ってみたくなるまちについて考えた。

〔コミュニケーション〕

・毎日自由に集まれる場があり、身近なご近所付き合いが温かいと住みたいと思える。

〔交通〕

・池袋と秩父を気軽に行ける環境を構築できるような、システム・仕組みを確立する。

・池袋⇔秩父間を高速バスで行けるなど、さらなる交通インフラを整備する。

〔自然〕

・自然と一緒に静かに過ごせる環境、またアウトドアなどアクティブに生活できる環境など、双方を兼ね備えている秩父の強みを生かし、非日常の空間づくりを強めてほしい。

〔若者〕

・自然環境を活かしたスポーツ施設をつくり、部活・クラブチームの合宿所としての誘致、取組みを盛んにする。そのことで新たな雇用も期待できる。

・子どもの遊び場施設（運動公園や、アミューズメント施設等）を充実させてほしい。豊島区にはこのような施設が少ないため、秩父にこれらがあれば大きな魅力となる。

〔生活〕

・生活のしやすさも重要である。

・山間地に宅地を広くとれる規制緩和を実施する。

・都心や他県にいる家族を秩父に招待できる宿泊施設をつくる（空き家を活用）。また宿泊費も安く済むような料金設定ができればなおさら良い。

〔仕組み〕

・豊島区と秩父市相互に、無料で使える駐車場をつくる。

・秩父の子どもが、豊島区の公立学校に入学でき、また豊島区の子どもが秩父の公立学校に入学できるシステムをつくる。（入学金や授業料の補助も盛り込む）

〔食と農〕

・「農家民宿」をつくる。行きたいときに秩父に行き、併せて秩父の農家で採れた作物を味わうことができるような環境があれば行ってみたくなる。

C チームまとめ発表

キャッチコピー

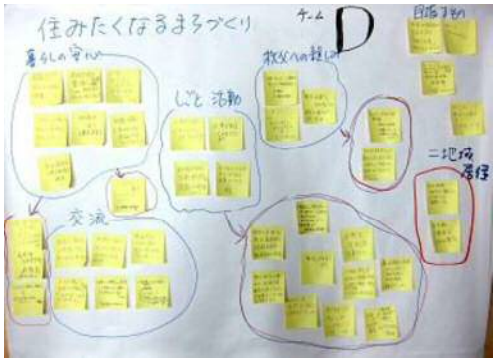
森と一番近いまち！自然と文化の融合するまち！

・豊島区に６０年住んでいるが秩父のことをあまり知らない。
→秩父の情報がうまく発信されていない。まずはそこを強化する。ＳＮＳの活用や豊島区の広報に秩父の情報を載せてもらう等工夫をする。
・いきなり移住は難しいと考えている。「二地域居住」を前提に、それを実現できるシステムを整備することから始めるべきである。
・多様な交通手段があることが望ましい。
→「なぜ、豊島区に住んでいるか」→便利だから→いきなり交通が不便なとこに住むのは厳しいと考える。
・秩父の空き家を活用し、大学・カルチャー・教養施設を作ることで「自己実現」の場が多くあると魅力を感じる。また、話題性のある「道の駅」があっても良い。
・「秩父の情報発信を強める」という意味合いから、豊島区側も空き家を活用し、秩父のアンテナショップを作る。→秩父を豊島区民にとってより身近なものへと。
・「住まい」のインフラも必要。
→有志を募り「シェア別荘」なるものを作り、第二の故郷化の取組みを行う。
・多世代コミュニティ、外国人も含め受け入れ体制を整える。
・「毎日愉快に過ごせるまち」が理想的である。
・まずは、補助金を出してでも「具体例」をつくることが大事である。

D チームまとめ発表

キャッチコピー

最も近い大自然のまち！チョウ、チカイ、ブラリ、シゼン

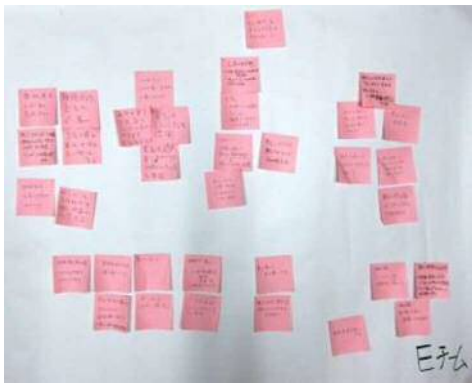


・高齢になっても買い物ができる、病院が近い、交通手段が便利など、「暮らしの安心」は必要不可欠である。
・移住者が地域に受け入れられ、各々その地域にとっての役割があることが大切である。
・インキュベーション施設を設置し、起業家を支援する。
・お祭りなどのメインイベントを秩父市・豊島区共催で行う。→相互に対する情報発信にもつなげることが期待できる。
・ＳＬを秩父から池袋まで走らせ、ひとつの名物とする。
・首都圏災害発生時の豊島区民の避難場所を秩父市にする。
・木工や秩父の野菜を使った飲食店など、秩父の自然環境を活かした仕事の創出をする。
・まずは「二地域居住」から。これを通して農業や林業を体験できるような仕組みづくりを強化する。もしくは、家具職人や伝統工芸人などが学べる学校や環境も併せて設立し、秩父ならではの職業に就ける流れやルートをつくる。

E チームまとめ発表

キャッチコピー

まつりで育てる！わたしの秩父暮らし！



・秩父は「夜祭」や「川瀬祭」など「祭り」がとにかく大きな魅力である。（年間で約３００開催しているほど盛んである）
→この「祭り」を最大のキーワードとして、まちづくり考えた。
・１回限りのイベントでなく、様々な分野において継続したイベントを共催で育てていくことが大事であ

る。これを通して何回も秩父に来ること、この秩父の魅力を通して定住につなげる仕掛けを展開していく。

・やはり居住するとなると病院、交通、教育施設など一定の暮らしやすさは必要である。

・子ども達が遊びに来ることができるような宿泊施設をつくる。区民にとって『第二の故郷』となるような位置づけが目標である。

・生きがいの場も必要である。→都内の人が、秩父で教室を開く。教室は空き家を活用する。

・自然や祭を通して、とにかく一回きりで終わらせるのではなく、リピートさせることがまず大切であると考える。